

2. 「若者の精子の質低下を危惧する」  
 ……………岩本晃明（国際医療福祉大学臨床研究センター・山王病院リプロダクションセンター男性不妊部門・聖マリアンナ医大泌尿器科）
  3. 「内分泌かく乱物質等と妊孕力」  
 ……………吉永淳（東洋大学生命科学部）
  4. 「セックス嫌いな若者たち—その真相を探る：「第8回男女の生活と意識に関する調査」結果から」  
 ……………北村邦夫（一般社団法人日本家族計画協会）
  5. 「セックス・テクノロジーの進歩の公衆衛生・人口問題への影響について」  
 ……………松浦広明（松陰大学）
  6. 「定位家族と生殖家族における親密性のあり方：北米，日本，東南アジアの比較を念頭に」  
 ……………森木美恵（国際基督教大学）
  7. 「日本の性交渉未経験者数の推移：国内分析・国際比較」  
 ……………ガズナヴィ・サイラス（東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教室）
- 討論者 佐藤龍三郎（中央大学）

日本人口学会の年次大会でも取り上げられることが少ないセクシュアリティの観点から少子化について議論する報告が並び、当日の参加者は30名ほどであった。性行動の不活発、精子の質低下、インターネット・ポルノグラフィーの影響、日本における低い性交頻度とその文化的土壌など多角的な側面からの分析・考察結果が報告された。会場からも活発な意見・質問がなされ、時間を延長して盛況のうちに終了した。（守泉理恵 記）

## 第51回国連人口開発委員会

米国・ニューヨークの国連本部にて第51回国連人口開発委員会（以下「CPD」）が2018年4月9日（月）から13日（金）まで開催され、筆者は政府代表団の一員として参加した。今回のテーマは「持続可能な都市，人の移動と国際人口移動（Sustainable cities, human mobility and international migration）」であった。議長はルーマニアのジンガ議長，副議長は南アフリカ共和国，パキスタン，ジャマイカ，ルクセンブルグの代表であった。

テーマに沿ったステートメントが78ヶ国・グループ国，8国際機関，10市民団体により行われ、新都市アジェンダ（New Urban Agenda）に基づいた都市人口，国内人口移動に関する取り組みや、移民の権利保護等について各国の状況が述べられ、また複数の国が現在進行中の国際移動に関するグローバルコンパクトについての支持を表明した。日本のステートメントは筆者が行い、東京一極集中とまち・ひと・しごと総合戦略など国内人口移動の動向と施策，また国際人口移動の動向，アジア健康構想を通じたアジアの介護人材の移動と介護システムの開発などについて紹介した。

基調講演は、第1日目は途上国の状況を、セネガル出身のムブupp（Mr. Gora Mboup）氏が「都市化と人口移動—二つの世界的なメガトレンド：多様性、機会と挑戦」というタイトルで、第2日目は世界全域の状況をジョージ・ワシントン大学のプライス教授が「国際移動の玄関（gateway）都市」というタイトルで、第3日目は「移民受け入れの最前線である都市：その経験と教訓」というタイトルでパネルディスカッションが行われた。第2日目のプライス教授による基調講演では、世界の大都市は国際移動者の玄関であり、世界の国際移動者の5人に1人は22の玄関都市に住んでおり、その国籍も多様であること、欧米豪アラブ湾岸地域の大都市に付け加え、近年、韓国・ソウルやチリ・

サンチアゴ、南アフリカ・ヨハネスブルグなど新興玄関都市が生まれてきていること等が説明された。しかし、一旦大都市に入った国際移動者がその後農村地域に動くのか、大都市と非大都市地域との間の国際移動者の再移動については特に集計していないとのことであった。

会期中に合計7つのサイドイベントが開催され、また国連人口部オフィスで、CPDに参加した各国の人口統計専門家の情報共有会合も開かれた。

肝心の決議案は、当初から合意が危ぶまれていたが、2015年（第48回）、2017年（第50回）に引き続いて、採択が見送られることとなった。今回のテーマ「持続可能な都市、人の移動と国際人口移動」に関し、移民の権利、CPDでどこまで移民、難民、グローバルコンパクトについて議論するべきか、といった点で各国の意見がくい違った。さらに、人口と開発の文脈で恒常的に議論が生じる「性と生殖の健康と権利」で、例年通り意見の収束が見られなかった。

グテーレス国連事務総長が2017年1月に着任以来、国連改革が進められているが、決議案の非採択が続く人口開発委員会についても改革のプレッシャーは高まっている状態である。次回第52回CPDのテーマは「国際人口開発会議行動計画のレビューと評価および持続可能な開発2030アジェンダのフォローアップとレビューに対する貢献」とすでに昨年から決定されているが、議長についてはいまだ決定されていない。

会議中の配布資料、各国ステートメント、動画、プレスリリースなどは、すべて国連のウェブ(<http://www.un.org/en/development/desa/population/commission/sessions/2018/>)より閲覧・ダウンロードできる。  
(林 玲子 記)

## アメリカ人口学会2018年大会

アメリカ人口学会2018年大会 (Population Association of America 2018 Annual Meeting) が4月26～28日の日程で米国コロラド州の州都デンバーで開催された。セッション数は計251であり、分野の内訳は、「出生・家族計画・性行動・リプロダクティブヘルス」(41)、「結婚・家族・世帯」(32)、「子ども・若者」(14)、「健康・死亡」(48)、「ジェンダー・人種・民族」(10)、「移民・都市化」(26)、「経済・労働・格差」(23)、「人口・開発・環境」(13)、「人口・高齢化」(15)、「データ・分析手法」(11)、「応用人口学」(4)、「その他」(10)、「招待講演セッション」(4)であった。また、ポスターセッションが11(各80報告程度)設けられていた。本年の大会には日本からの参加者が例年と比べ少なかったが、主催者の発表によれば2,465人が大会初日に参加登録を行った。本研究所からは報告者が参加し、“Women's Employment and the Timing of First Marriage and First Childbirth in Japan: A Life Course Perspective”を報告した。また、報告者は大会開催に先立つ24～25日にIUSSP主催のトレーニング・コース“Bayesian Small Area Estimation Using Complex Survey Data: Methods and Applications”に参加する機会をえた。ワシントン大学統計学部・生物統計学部のWakefield教授らを講師に迎えたコースは米国らしく、理論に関する講義と統計解析パッケージRを用いた実演がバランスよく配置されていたのが印象的であった。ベイズ統計学及びサンプリング理論の基礎からBayesian SAEについて現在進行中及び今後の研究課題までがわずか16時間に凝縮されており、参加できたことは貴重な機会であった。  
(菅 桂太 記)